全国一斉
企画展示

ちょっと待って！
その放流

日本産希少淡水魚繁殖検討委員会（CBEJF）20周年記念事業

明日へつなぐ 日本の自然

よみがえれ、日本の希少淡水魚

開催にあたって

本事業は、日本産希少淡水魚繁殖検討委員会（The Committee for Breeding of Endangered Japanese Freshwater Fishes）が行っている希少淡水魚の種保存活動20周年を記念し、全国の水族館・動物園で一斉に開催する企画展です。
各水族館・動物園で繁殖・保存している淡水魚をとおし，絶滅の危険性が高まっている淡水魚の現状、中でもここ数年で大きな問題となっている無秩序放流について取り上げ、一人一人の意識から身近な自然環境を守ることの重要性を、改めて認識していただくことを願って開催するものです。

（社）日本動物園水族館協会
種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会

日本の希少淡水魚の現状

放流が引き起こす問題

現在、日本国内には約400種類の淡水魚が生息しています。そのうち「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト（レッドリスト）」（環境省：2007年）によれば、イタセンパラ、アユモドキなど144種類もの魚が絶滅のおそれがあるとされています。これら希少淡水魚の多くは、開発や乱獲など様々な要因で減少してきています。なかでも、近年特に問題となっているのが無秩序な放流による、在来魚（昔からそこに生息していた魚）への影響です。

無秩序放流というと、釣り愛好家などによるオオクチバスなどの密放流がよく知られています。しかし、それよりもっと身近なものとして、ペットショップで買ったメダカやタナゴなどを近所の川や池に悪気なく逃がしてしまう行為が挙げられます。

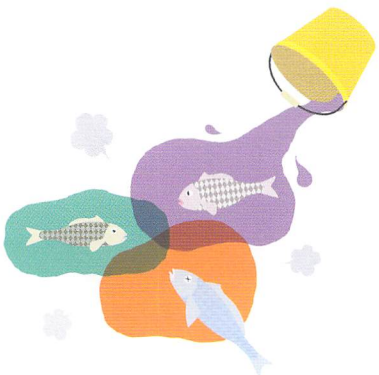
淡水魚の場合、繋がっていない別の水系に移動できない特性から、同じ種であっても日本国内で地域ごとに、遺伝的に違いが生じ、生態的・形態的にも多様であることが知られています。例えば，メダカは大きく北日本と南日本の集団に分かれ、最近の研究では約1800万年前に共通の祖先から枝分かれしたと考えられています。つまり、同じメダカであっても、地域集団の分布を無視して放流してしまうと、長い時間をかけた進化の結果である地域ごとの遺伝的特性が、ほんの一瞬で混ざってしまうことを意味します。それはまた地域の風土が育んできたメダカの特徴を一瞬で壊してしまうことにもなるのです。

さらには漁業や釣り目的で膨大な量のアユやコイ、フナ、ヤマメなどが全国各地で放流されています。放流種苗そのものが地域にもとからいた魚と混ざってしまう問題に加えて、それらに混じって他の淡水魚も本来の分布域を越えて全国に広がることも明らかになってきました。

その他にも環境再生のシンボルとして、あるいは情操教育を目的として作られるビオトープなどに、自然保護団体や自治体が中心となって産地の分からない魚類を放す‘無秩序放流’も後を絶ちません。

多くの放流が人々の「善意」に基づいて行われるため、一方では良い事ばかりに聞こえます。しかし実のところ困った問題もたくさん起きています。

私たちの周りの自然を守っていくために、まずは起きている問題を正しく認識し、望ましいことは何なのかを考えていく必要があるのです。

参加園館

小樽水族館公社／サンピアザ水族館／登別マリンパークニクス／千歳サケのふるさと館／青森県営浅虫水族館／マリンピア松島水族館／ふくしま海洋科学館／秋田市大森山動物園／新潟市水族館マリンピア日本海／上越市立水族博物館／栃木県なかがわ水遊園／さいたま水族館／東京都葛西臨海水族園／しながわ水族館／横浜・八景島シーパラダイス／新江ノ島水族館／（株）京急油壺マリンパーク／山梨県立富士湧水の里水族館／東京都恩賜上野動物園／井の頭自然文化園／江戸川区自然動物園／横浜市野毛山動物園／横浜市立金沢動物園／富山市ファミリーパーク／魚津水族館／越前松島水族館／いしかわ動物園／伊豆シャボテン公園／岐阜県世界淡水魚園水族館／碧南海浜水族館／南知多ビーチランド／名古屋市東山動物園／日本モンキーセンター／名古屋港水族館／滋賀県立琵琶湖博物館／宮津エネルギー研究所水族館／鳥羽水族館／志摩マリンランド／水道記念館／神戸市立須磨海浜水族園／城崎マリンワールド／姫路市立水族館／京都市動物園／大阪市天王寺動植物公園事務所／島根県立しまね海洋館／島根県立宍道湖自然館／桂浜水族館／虹の森公園おさかな館／宮島水族館／下関市立しものせき水族館／海の中道海洋生態科学館／かごしま水族館／沖縄美ら海水族館／熊本市動植物園